



病棟紹介

看護部長室

看護部長室は、稲佐山、長崎港、水辺の森公園、三菱造船所、女神大橋が見え、天気の変化と共に味わいのある風景が楽しめる恵まれた環境に位置しています。

看護部は副院長兼看護部長、業務担当副部長、教育担当副部長、看護師長13名、事務員の17名で構成され、精神願望年齢は20歳、実平均年齢は院内一高いと自負しています。看護部の役割は、「患者サービスの質の保証」「専門職としてのキャリアアップ」「よりよい医療や看護を提供するためにコメディカルと協働し、病院内及び地域の皆様との連携を深めチーム力を高めること」「病院経営への参画と目に見える成果を上げること」と捉えています。市民病院としての役割を最大限発揮できるよう、笑顔と優しさを忘れずに、

しなやかで柔軟な指導力と支援力で、各部署の皆様方と接し、調整役を果たせるよう努力していきたいと思っています。

看護部は、「安全で質の高い看護ケアの継続と、個別性を尊重した看護の提供」を実現するために、「よく見て、よく聴いて、よく話して、手を添える、思いやりのある看護を行う」ことを大切に、日々研鑽を続けています。



【看護部長室スタッフ】

7階西病棟

7階西病棟は内科病棟で主に循環器の患者が入院されます。ベッド数は46床。CCUベッド2床を備え、心筋梗塞や重症心不全、肺梗塞などの患者を受け入れています。

月・火・水曜日の午後は冠動脈造影検査を行っています。平成22年度の心臓カテーテル検査は848件、PCIは253件でした。

フォローアップCAGは入院時よりクリティカルパスを使用しています。

鈴木院長、中嶋主任診療部長をはじめパワフルな医師、又看護師長、看護副師長を含む24名の看護師で、緊急入院にフレキシブルに対応しています。入院患者が多数の時は他の病棟もお世話になりながら緊急患者を受け入れています。

又看護師は3つの固定チーム目標達成に向け、様々なことに取り組み、質の高い看護サービスの提供ができるよう努力しています。



【7階西病棟スタッフ】



【明るく元気なスタッフがそろっています！】



Introduction



部門紹介【リハビリテーション部】

みなさん、こんにちは。今回は、当院のリハビリテーション部を紹介したいと思います。

当部は、平成21年10月に作業療法士1名、平成22年4月から理学療法士2名が新たに加わり、現在は朝長部長（整形外科部長兼任）を筆頭に理学療法士6名、作業療法士1名、事務補助員2名の合計10名体制となっています。

現在のリハビリテーション施設基準は、運動器リハ（Ⅰ）、呼吸器リハ（Ⅰ）、脳血管疾患リハ（Ⅱ）を取得しており、主に入院患者さんを対象としたリハビリテーションを行っています。

平成22年度の当部への紹介症例総数は延べ802例で、その内訳は運動器リハが76%、脳血管疾患リハが22%、呼吸器リハが2%でした。疾患別に見てみると、骨折や脊椎疾患等の整形外科疾患が多くを占めますが、以前に比べるとがんや内科疾患（代謝、呼吸器、循環器疾患）、外科の術前術後の患者さんなどが多くなっています。高齢化社会であることや、当院の役割（急性期病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院）を考えると、今後も増えていく事が予想されます。また、少数ではありますが、NICUでのハイリスクベビーに対する理学療法士の介入、退院後の継続支援は当部の大きな特徴の一つだと思います。

その他、理学療法業務以外の院内の役割として、糖尿病教室や緩和ケアチーム、栄養サポートチームや各種委員会の一員として活動しています。また、臨床実習指導にも力を入れており、毎年10名前後の理学療法士を目指す学生を、長崎だけでなく、大阪、岡山、福岡などからも受け入れています。

平成26年の新病院開院へ向け、これから新たに心大血管疾患リハやがん患者リハ、脳血管疾患リハ（Ⅰ）の施設基準取得を目指しています。そこで当部では、運動器リハ領域に加え呼吸器・循環器リハ領域、作業療法部門、がん患者リハ領域における技術・知識の向上を目指し日々研鑽しています。そんな中、昨年には3学会合同呼吸療法認定士が1名誕生しています。

今後も技術、知識の向上を目指し、皆さんの期待に少しでも答えることができるよう努力していきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

理学療法士 中村 匡雄



【リハ室のイケメン吉田さん】



【リハビリテーション部スタッフ一同】





認定看護師続出!

当院に新たに2人の認定看護師が誕生しました。そこで今回はその2人をご紹介します。なお、現在、がん放射線療法看護認定看護師を目指して1人が研修中です。



内科外来勤務
救急看護認定看護師
石井美保子
血液型：O型
趣味：スキー（ウィンタースポーツ全般）

はじめまして。内科外来に所属しております。石井と申します。私は2010年6月から日本赤十字九州国際看護大学の救急看護認定看護師教育課程で学び、2011年6月に救急看護認定看護師の認定審査に通りました。現在、二次救急を担当しております。

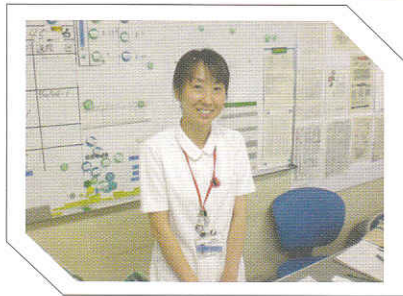
皆さん、救急看護と聞いてどのようなイメージがあるでしょうか？救急看護の目的は、対象の命を救い、生を支えるところにあります。初療から始まり、急性期を脱する患者さんへ関われる事は大変名誉なことだと思います。そして、救急ならではの家族看護が展開できるものこの場面であると考えます。

私は、今まで手術室やNICU、ICU、CCUなどで勤務する機会があり、集中ケアを中心に患者さんと接してきました。その中で、初療における様々な病態の様々な年齢の方々へ携わりたいと思い救急看護を目指すことにしました。

救急看護が生かせる場面は、病院内だけではなく、いろいろなありますよ。今年の3月の東日本大震災のような未曾有の災害に対しても、出動できるように、日本DMAT隊としても自己研鑽していきたいと思っています。



【東日本大震災で被災地入りした石井看護師】



6階東病棟勤務
糖尿病看護認定看護師
山下理恵
血液型：B型
趣味：スノーボード・ドライブ・旅行
彼氏：募集中

はじめまして。6階東病棟に所属しています。山下と申します。私は、2010年に日本看護協会看護研修学校「糖尿病看護学科」にて1年間糖尿病看護について学び、今年7月に糖尿病看護認定看護師の資格を取得しました。

現在、糖尿病患者数は、糖尿病の可能性が否定できない人（糖尿病予備軍）1320万人と糖尿病が強く疑われる人890万人を合わせて2210万人と増加傾向にあります。糖尿病は、食事や運動など自己管理の病気といわれています。一人で頑張る方もそうでない方も、お気軽にご相談ください。糖尿病と共にある生活を上手に過ごしていただけるように、できる事を共に考えていきたいと思えます。今後、巻き爪のお手入れなど下肢病変予防のためのフットケア外来も行っていく予定です。ですので、よろしくお願いたします。



【患者さんに血糖自己測定を指導する山下看護師】

地域医療連携室便り



病院スタッフ（主治医・緩和ケア医師、薬剤師、病棟看護師、MSW）

退院支援・退院調整研修会を開催しました！

退院支援・調整研修会は緩和ケア委員会主催で年2回開催しております。今回はがん末期で独居の患者さんの事例をとおして病院における退院支援から、在宅支援へのバトンタッチ、そしてゴールまでの患者さんとの関りを振り返りました。それぞれの立場での関わりから病院・在宅チームの頼もしさを感じた研修会でした。院外からも23名の方の参加があり、在宅医療に対する皆様の関心の深さがうかがえました。



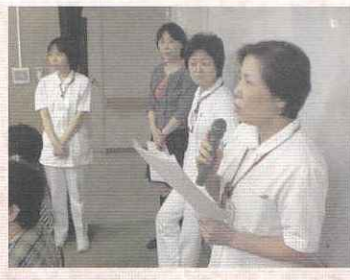
意見交換も有意義でした



頼もしい在宅の先生&訪看さん&ケアマネさん



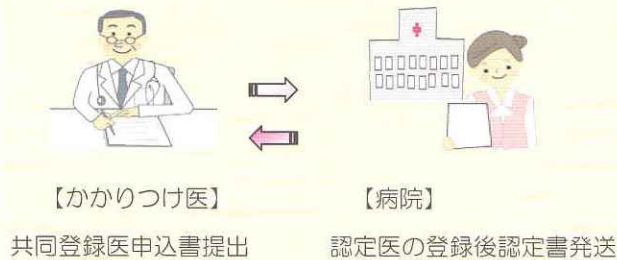
この方の自己負担金はどれ位ですか？



開放病床もご利用ください！

平素は当院へのご紹介、またご支援を賜りまして誠に有難うございます。当院では地域の先生方にご利用していただく「開放病床」の制度があります。平成22年度の登録医は147名ですが、登録医利用数は5名、利用回数は38回でした。地域の先生方におかれましては、毎日ご多忙とは存じますが「一貫した医療の提供」に開放病床をご利用いただきますようお願い致します。

登録医申し込み



開放病床の利用

来院日をご連絡ください。



スムーズな連携ができますよう運用を検討致しますので、お気づきの点はお申し出ください。詳しいお問い合わせは地域医療連携室までご連絡ください。

長崎市立市民病院

〒850-8555 長崎市新地町6-39
TEL : 095-822-3251
FAX : 095-826-8798
HP <http://www.nmh.jp/shibyoy/>



発行・編集
市民病院広報委員会
広報委員長
鈴木 伸

長崎 市民病院

検索

まずはクリック♪